

『全世代通信』 第 42 号 待機児童解消のための病院内保育所助成の個別紹介 I

『全世代通信』 第 42 号 2022/3/31 待機児童解消のための病院内保育所助成の個別紹介 I
認定 NPO 法人「全世代」メールマガジン <http://zensedai.org>

新型コロナ渦で 3 度目の桜の季節を迎えています。依然収束への道筋がみえないまま、ロシアによるウクライナ戦争や宮城・福島地震も加わりました。初詣で絵馬に記す「無病息災・疫病退散」、「世界平和」、「災禍撲滅・家内安全」といった万人共通の願い事がいつになく突き刺さります。

今号は前号に続き、「地域開放に取り組む病院内保育所の支援事業」と「医師のセカンドキャリアと地域医療を支えるネットワーク」の活動報告です。本来、春の全世代フォーラムの主要プログラム項目ですが、未だ開催のメドが立たない状況です。長引くコロナパンデミック下にあって、久しくお会いできずにいる会員、新たに会員に加わって頂いた皆さまに、粛々と進める活動と成果をお伝えします。

(このメールマガジンは会員はじめ、全世代の活動に対し、ご理解、ご支援を期待する皆さまへお送りしています)

▼今号の内容

- <1>待機児童を減らすための病院内保育所助成の個別紹介 I
- <2>「医師のセカンドキャリアと地域医療を支えるネットワーク」の活動報告第 3 報
- <3>事務局から

< 1 >待機児童を減らすための病院内保育所助成の個別紹介 I

長年、待機児童問題に取り組んできた保育プロジェクト（リーダー：石濱人樹代表理事）は事業の総決算として、積極的に地域開放を推進している病院内保育所 8 施設に対し、総額 388 万 2452 円の助成支援を実施しました。（公募結果や審査基準は前号 41 号に掲載しました）

その具体的内容の第 I 弾報告として 2 施設を紹介します。全世代ホームページ (<http://zensedai.org/>) には保育所から寄せられた感謝のメッセージや助成品で楽しそうに遊ぶ園児たちの写真類を掲載しています。こちらもぜひご覧下さい。（菅原正純）

〈訂正〉前号での助成施設で「倉敷北病院」を「宮地倉敷北病院」と誤記しました。お詫び申し上げます。

① 【医療法人 友仁会 友仁山崎病院 かるがも保育所】

所在地：滋賀県彦根市竹ヶ鼻町

園児定員： 35 名（うち地域枠 10 名）

助成対象：幼児向けブロック、乗用玩具 キッズスポーツカー

◇申請・助成理由

院内保育所として発足し、平成 31 年から待機児童の受け皿として地域貢献を目指し、地域ではほとんどない休日保育も行っております。しかし開設当初からの設備・備品・玩具は劣化がみられました。日々触れる玩具を新たに購入することで、良質な水準の保育を提供でき、園児が楽しく登園でき、保護者も安心して利用していただけるようになりました。

◇助成成果

今まで乗用玩具が無かったため、園児たちはとても喜んでおります。コロナ禍と悪天候で外に出られない時も体を動かして楽しく遊ぶことが出来るようになりました。地域枠の保護者の方々も休日保育を利用するなど、地域の保育の受け皿として機能しております。

②【医療法人明倫会 キッズクラブもとやま キッズルームころねん】

所在地：神戸市東灘区岡本(キッズクラブもとやま)、神戸市東灘区本山中町(キッズルームころねん)

園児定員：35 名 (うち地域枠 24 名)

助成対象：▶園児用テーブル専用飛沫ガード取替カバー ▶らくがき両面ホワイトローボード (x2 園) ▶おむつ交換台 ▶だっこ紐 (x2 園) ▶紙芝居 3 種類 (x2 園) ▶ボーネルンド マグフオーマー (x2 園) ▶鉄棒安全マットセット ▶AirdogX5 s(高性能空気清浄機)

◇申請・助成理由 明倫会は保育園の開園前から地域交流の活動に積極的です。開園後は待機児童対策の為の認可外(キッズクラブもとやま)での受け入れ、認可園(キッズルームころねん)での一時保育や出産される方の上のお子さんをお預かりする妊娠出産制度などプラスαの子育て支援活動を行っています。

また「ころころねんね」と称して、6ヶ月~1歳までの未就園児親子を対象とした地域交流イベントを毎月開催。子育て中のお母さんの息抜き・交流の場として始めました。本事業においては、コロナ対策およびBCP(事業継続計画)対策としての備品と、より質の高い保育を提供するため有益かつ安全な地域玩具の購入助成を申請しました。

◇助成成果 コロナ禍で外遊びやお出かけの時間が減っている中、子どもたちに人気の知育玩具が増え、保育士・園児ともに喜んでおります。また院内保育のためのびのびと走り回れる環境が少なく運動不足になりがちですが、鉄棒セットの購入ができ、園児の運動とストレス発散に役立っています。ホワイトボードは購入後まもなく作品展覧会(定例行事)の時期になったため、園児たちの作品を展示し、保護者に見に来ていただきました。展示会終了後は園児が自由にお絵かきできるボードとして保育室で使用しています。またコロナ対策として飛沫ガードや、非常時用のだっこ紐などの購入も実現し、感染対策・防災への備えも充実できました。(明倫会理事長 宮地千尋)

<2>「医師のセカンドキャリアと地域医療を支えるネットワーク」の活動報告 3 報

この事業は昭和 50 年ごろに相次いだ医大新設による医師増により、近年定年を迎える医師が増加傾向にあります。そのセカンドキャリアとして多様な選択肢を提供することは大きなニーズがあると考えます。一方で医師不足の地域や診療科はいまだに多数存在し、医療提供体制の整備、充実は大きな課題です。この 2 つを効果的に解決することと、医療人自らが主体的に運営することで医師確保の現状や文化を変えることを目指して 2020 年に立ち上げられました。

特色は日本医師会、日本病院会、全日本病院協会、全国自治体病院協議会という医療関連の諸団体と認定 NPO 法人全世代が協力して運営にあたること、日本医学会や全国医学部長病院長会議などにもご理解とご協力をいただき、医師と医療機関の双方に信頼されるシステムとなっていることです。

▽2021 年度の取り組み

しかし 2 年前に新型コロナのパンデミックが発生したことにより、活動は停滞しました。今年度は今後を見据えた体制整備に取り組み、またコロナ対策に協力するために厚生労働省委託事業の一環として、ワクチン接種に従事する医師の確保に取り組みました。

1、セカンドキャリア事業では、上記 5 団体による連絡協議会（直近で 3 月 10 日第 3 回を Zoom 開催）を年 2 回開催し、事業を紹介業法の資格を持つ一般社団法人国際事業研究所に委託。医師 86 人と求人医療機関 1,000 件が登録済みで、マッチングを進めています。その中で常勤 1 件、非常勤 2 件が成立しました。

2、新型コロナのワクチン接種医師確保事業では 8,200 人余の医師の登録があり、自治体や事業所への紹介を行っています。

▽2022 年度の取り組み

引き続きそれぞれの事業をさらに拡充して成果をあげたいと考えています。特に医学会に所属する各学会との連携を強化し、専門医や指導医の調査等を通して臨床研修体制や指導体制の充実にも協力することも検討していきます。 (内田健夫、杉村正樹)

< 3 >事務局から

*全世代の発足時から監事を務めて頂いた公認会計士の田代充雄さん 3 月 5 日、入浴中に急死されました。同 11 日、熊谷市での通夜には、尾身代表理事が参列しました。享年 72 歳でした。坂井秀行さんと共にボランティアで毎年度末の監査報告書を作成して頂きました。心より感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

*認定 NPO 法人の存立条件である賛助会員確保について再三お願いしてきました。お陰様

